

# 百人一首をよむ 黄

## 恋の歌2

85 夜もすがら物思ふこひは明けやらで闇のひまさへつれなかりけり

【歌意】一晩中、あの人への思いにふけるこの頃は夜明けが遅く、寝室の戸のすき間まで薄情で朝の光が入ってこない。

【語句】夜もすがら……一晩中ずっと 閨……寝室 つれなかりけり……薄情だなあ。

【問題】この歌の話者（作者ではない）は男性？女性？それはどうして？

「寝室の戸のすき間まで薄情」とあるけど、他に誰が薄情なの？

つまり、( ) が薄情だから戸の光と同じよう( ) といふこと。

89 玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶことの弱りもござする

式子内親王

【歌意】命よ、絶えてしまつならいつそ絶えてしまえ。生きながらえていふと恋を堪え忍ぶ力も弱るかも知れないから。

【語句】玉の緒よ……命よ。もともとは、玉を貫いた緒（ひも）のこと。「玉」は「魂」に通じ、人の命のこと。  
忍ぶ……心を隠す。恋い慕う。

【問題】どうして命が絶えてほし……と思つてゐるの？

俊惠法師